

(社)日本機械学会 北海道学生会

第44回全国学生研修会 参加記

室蘭工業大学 機械システム工学専攻1年 瀧本 森

2006年8月16日から18日までの3日間、日本機械学会の第44回全国研修会に参加した。その開催地は九州の佐賀県。北海道を出たことは、生まれてから数えるほどしかない僕にとって、九州が果たしてどのようなところか想像もつかず、とても楽しみにしていた。

全国研修会は16日からであったが、交通機関の都合上、一緒に参加した高田君と僕は、前日を博多で過ごした。快晴の福岡空港へ到着し、外へ出たときの暑さには本当に驚いた(空港出口傍にあった温度計は34を示している!)。地下鉄で博多へ行き、ホテルに荷物を置いてあたりを散策することにした。博多といえば、明太子、とんこつラーメン、屋台、モツ鍋である。ということで、まずは博多ラーメンを食べた。味はとても美味しい。ラーメン食べ終え、明太子を実家へ送り、屋台を楽しむための腹ごなしとしてYahoo!ドームまで歩いた。道中、さすが九州という光景(瓦屋根、民家の庭に椰子の木)や体験(アイスが見る見るうちに溶ける、とにかく暑い)に会った。近くの屋台でもラーメンを食べた。ここもとても美味しかった。

初日、8月16日、快晴。列車に乗り、集合場所である佐賀県JR鳥栖駅へ向かう。全国の大学から集まる学生はどんな人たちだろうと楽しみであった(しかし、すでに、暑さに参っていた)。集合場所で風間先生や他大学の学生たちと合流して、バスに乗車。まず向かった先は「吉野ヶ里遺跡」であった。弥生時代の遺跡の中でも我が国最大のその遺跡は、歴史の教科書などで誰でも見たことがあると思う。実に広い。とても予定されていた時間だけでは全て回ることができず、ごく一部しか見られなかったが、昔の人々の生活がよく分かった。

吉野ヶ里遺跡で予定されていたイベントは、なんと「火起こし体験」であった。この炎天下の中、さらに火を起こすというのである。全員汗だくになりながら火を起こしている姿は、暑さを通り越してどこか爽やかですらあった。

吉野ヶ里遺跡の見学を終えた僕らは、その日宿泊する北山少年自然の家へ向かった。暑さにすっかり負けた僕はバスの中で眠ってしまい、目が覚めるとそこは山奥であった。宿

泊施設に到着し施設の利用方法などについての説明を聞いた後、各自部屋へ行った。その部屋は7人部屋（九州なのに冷房がなかった！）で、他大学の学生といろいろな話をした。

夕食の前に委員長校会があり、そこで各支部での学生会の活動や、学生会の活動を盛んにするにはどうしたらよいかなどについて話し合われた。夕食と懇親会では、九州の焼酎を飲みながら他大学の学生たちと研究や地域の話で盛り上がった。その後、入浴を済ませ部屋に戻り、同室となった学生たちと楽しいときを過ごした。



第2日目、8月17日、曇り。宿泊施設を出発し、向かった先は「佐賀大学海洋エネルギーシステム研究センター」である。同センターでは海洋温度差発電や、海洋からのリチウム回収に関する研究などが行われており、その設備は非常に大規模であった。特に僕の印象に残ったのは、海洋深層水環境実験室であった。ここには大きな水槽実験装置があり、温度や塩度の分布を持つ海洋の流れを再現できるそうである。

昼食をとった後は、名村造船所を見学した。同社では、7～18万総トンのタンカーや貨物船を建造している。造船所内はとても広く、タンカーができ上がるまでの各工程をバスに乗って見学した。すべての工程において、その規模の大きさと緻密さに驚いた。特にタンカーの組立の工程では、作業している方々や自分たちが本当に小さく見え、人とはこんなに大きなものを精確に組み立てられるものなのかと感激した。造船所内を案内してくれた方は、造船では塗装が非常に重要で徹夜の作業が続くこともあることや、LPG船と呼ばれるガスを輸送する船の建造は気密性などの技術的な面から特に難しいことなど、非常に興味深い話をしてくれた。また、質問にも丁寧に答えてくれた。

造船所を見学した後、僕たちはその日の宿泊施設である「黒髪少年自然の家」へ向かった。この日、台風が近づいて来ており、宿泊地に到着するころには風も強まってきた。到着早々、翌日の帰路を心配しながら入浴を済ませた後、夕食と懇親会が始まった。外の風は大分強くなり、雨も降り出していた。しかし、懇親会が始まると台風のことには忘れて楽しんだ。この二日間で皆打ち解けて、前日以上に盛り上がった。就職活動の話、地元の方の話など、夜半まで話題は尽きなかった。

最終日、8月18日、台風。朝起きると、外は強風と強い雨が降っていた。解散時刻頃、台風が福岡空港を直撃するらしいとの情報が入った。そのため、この日、予定されていた有田ポーセリングパークでの見学を一部取り止め、当初の予定よりも早めに解散すること

になった。ポーセリングパークへの移動中もバスの中の話は台風のことであった。僕はそれまで本場の台風を経験したことがなかったので、その強い雨と風に圧倒されてしまった（雨が真横から降っている！）。しかし九州の学生は何事もないかのように平然としていた（強い台風ときは瓦など色々な物が吹き飛んでしまうらしい）。

有田ポーセリングパークでは、酒蔵見学と有田焼の絵付け体験があった。宗政酒造の酒蔵見学では、焼酎の出来るまでを見学することが出来た。僕は「酒蔵」と聞いて、薄暗い木造の建物の中で職人さんが静かに仕事をしているというイメージを持っていたが、実際にはほとんどの工程が機械を使って行われていた。一通りの見学を終えた後、試飲コーナーで試飲して、気に入ったものを研究室への土産として購入した。



最後のイベントは有田焼の湯呑み絵付け体験であった。各自思い思いの絵柄を書き込んでいた。僕は台風が迫っていたので「飛行機飛んで！」という願いを書いてしまった。絵付け体験を終えた僕たちは、解散場所である福岡空港へ向かった。バスの中では皆連絡先の交換や、飛行機が飛ばなかったらどうするかの話などをしていた。窓の外の台風による曇り空と、竹林や茶畑や白鷺を見ながら「ああもうすぐ終わってしまうんだな」と思い、少しさびしくなった。

福岡空港に到着し、皆と別れ飛行機の運行状況を見てみると、なんと帰りの飛行機は予定通り飛ぶらしい。台風はそれほど僕らに意地悪をしなかったと胸をなでおろした。僕と高田君は荷物を預けて、博多ラーメンを食べ（そのラーメンも非常に美味しかった）、飛行機に乗った。台風の影響で飛行機はたびたび揺れたが順調に飛んでいった。

しかし、最後に僕らは台風の恐ろしさを感じるようになった。九州の台風の影響で北海道の天候も荒れてしまい、飛行機は着陸が出来ずに新千歳空港上空を数十分間旋回することになったのだ。

こうして4日間の九州滞在と日本機械学会第44回全国学生研修会が終わった。九州という行ったことのない土地で、全国の学生といろいろな話をできたことは非常に良い経験になった。

最後に今回のお世話になった先生方、全国の学生、素晴らしい技術を見せてくれた見学先の方々に心から感謝申し上げます。